

白老町議会  
議長 松田 謙吾 様

会派きずな  
代表 西田 祐子 印

派遣結果報告書

日時(期間)	自 令和4年3月24日(木) 至 令和4年3月26日(土)
目的地	愛知県名古屋市 三重県伊勢市
調査事項	観光地の新型コロナウイルス感染症対策について
視察の成果 (具体的に)	<b>【派遣者】</b> 西田 祐子 松田 謙吾 前田 博之  <b>【視察結果】</b>  別紙のとおり

## 1. 名古屋市について

### (1) 人口

名古屋市の平成4年3月1日現在の人口232万861人、平成9年度以降令和2年度まで24年連続で増加していたが、25年ぶりに人口減少となった。高齢化率(満65歳以上)25.1%、75歳以上は13.2%となっており、都会でも人口減少と高齢化が顕著になってきており、交流人口獲得の為の施策を推進している。

### (2) 観光統計

交流人口の核をなす観光入込客数の把握の精度を高め、観光施策の企画立案に必要な基礎データを整備するため、観光庁が定める「観光入込客統計に関する共通基準(平成25年3月改定)」に基づき、令和元年に108地点の観光入込客数の調査を実施している。

①観光延べ人数 約7,299万人 入込客実数 約4,999万人

②観光総消費額 4,268億円

#### ③居住地構成・性別・年齢別

観光入込客の居住地は、全体では「名古屋市」の割合が35.5%と最も高く、「愛知県(名古屋市を除く)」「岐阜県・三重県・静岡県」を合計した「東海」が68.4%を占め、「東海」以外の地域からの入込客は全体で31.6%。

男性が41.2%、女性が58.8%と、女性の割合が男性より高くなっている。

男性は「30～39歳」の割合が19.8%と最も高く、次いで「40～49歳」(19.6%)、「20～29歳」(18.3%) 女性は「30～39歳」が20.0%と最も高く、次いで「20～29歳」(19.2%)、「40～49歳」(15.9%)

#### ④旅行の主な目的

「観光施設の見学」が多く、これをはじめとする「観光・娯楽」目的者の割合は合わせて87.0%を占める。

#### ⑤名古屋を選んだきっかけと観光施設への遊覧状況

「前に来たことがあり良かったから」が34.8%で最も割合が高い。観光地点相互でみると、「名古屋城」とセットで立ち寄る割合が高く、特に「熱田神宮」では入込客の18.0%が名古屋城に訪れており、他の観光地点と比べて高い。

#### ⑥旅行形態

「友人・知人」と同行する観光客が31.0%、「幼児・小学生連れ」「夫婦」など「家族連れ」が合計で50.1%、「ひとり」が15.7%となっている。

### ⑦名古屋市へ訪れた回数

名古屋市外からの入込客が名古屋を訪れた回数は、「10 回目以上」が 60.8%と最も多く、「はじめて」訪れた割合は 12.2%である。

### ⑧名古屋の印象・旅行の満足度

全体で「大変満足」(23.8%)と「ほぼ満足」(41.3%)を合わせた 65.1%が満足と評価している一方、「不満」は 0.3%、「やや不満」は 1.5%である。年齢別にみると、50 歳以上のすべての年齢層で「歴史的な施設」の満足度が最も高く、50 歳未満のすべての層では「レジャー施設」の満足度が最も高い。20 歳未満と 80 歳以上の層では「ショッピングや街歩き」の満足度が最も高い。

### ⑨名古屋への今後の訪問意向

「機会があれば訪れたい」「是非訪れたい」が 66.1%となっており、訪問する意向がある割合は性別、年齢別、居住地別で差は見られない。

### ⑩訪れたい名古屋観光資源

「歴史的施設」15.3%、「レジャー施設」14.2%、「産業観光・ものづくり施設」9.5%、「街歩き」6.7%の順になっている。

### ⑪観光振興の「なごや観光ルートバス」の認知度・利用意向

主要な観光施設等を周遊する金色の観光ルートバス(メーグル)を「利用したことがある」は 2.8%、「知っていて、利用したい」を合わせても認知度は 10.4%である。「知らなかったが、利用したい」60.3%30 歳代~40 歳代、60 歳代以上で利用意向の割合が高いが、まだ十分に周知はされていない。

### ⑫名古屋市の主な観光施設

1 位熱田神宮(約 740 万人)、2 位ナゴヤドーム(約 518 万人)、3 位東山動物園(約 251 万人)、4 位名古屋城(約 220 万人)、5 位名古屋水族館(約 219 万人)、6 位スポーツパーク(約 147 万人)、7 位名古屋市科学館(約 133 万人)、8 位農業文化園・戸田川緑地(約 106 万人)

## (3) 名古屋城・金シャチ横丁

観光客動向調査・入込客数(人)

施設	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	令和元年度
名古屋城	1,641,787	1,740,178	1,919,479	1,830,404	2,205,544
徳川園	285,957	320,341	320,335	300,498	352,563
徳川美術館	183,263	253,848	231,155	222,958	232,429

## ①徳川美術館・徳川園

尾張徳川家伝来の大名道具や他の大名家の売立てでの購入品、名古屋の豪商らからの寄贈品など。2019年現在で、国宝9件、重要文化財59件を収蔵する。

1910（明治43）年は「名古屋開府300年」にあたり、祝賀行事の一環として、尾張徳川家は同年4月9日から3日間、名古屋で、初代・義直ゆかりの品を中心とした什器の展覧会を開催した。什宝の展覧会がたびたび話題を呼んだことで、尾張徳川家第19代当主は、什宝の保存や公開の必要性を感じるようになり、美術館の設立を構想し、1935年に美術館の建物を竣工し、11月10日に一般公開を開始した。

企画展示室、及び隣接する蓬左文庫展示室において、年間約10回程度、様々なテーマに絞り、特別展・企画展を実施している。特別展・企画展では、国宝「源氏物語絵巻」など、常設展示では見られない貴重な展示物を鑑賞できる。この時期、特別展・尾張徳川家のひな祭りが開催され、多くの観客が訪れていた。入り口でもマスク着用・検温と手指消毒を促す職員を配置している以外は特段の制限はない。

隣接する徳川園は、1695年に尾張藩2代藩主徳川光友の隠居所の大曾根御屋敷跡に築造された池泉廻遊式の大名庭園である。園内に配置された山、大曾根の瀧、溪流、龍仙湖、牡丹園、菖蒲田はそれぞれ木曾山脈、木曾三川、伊勢湾、濃尾平野に見立てられてのものであり、自然の景観を凝縮している。これは尾張国の土地柄の豊かさを表現したものである。滝を施した池を周遊する散策路と広々とした空を感じさせる庭園は都会の真ん中とは思えない清々する趣がある。

まん延防止などの制限がある中で、都会のオアシス・価値のある存在として見直され入場料を支払っても良いからと散策に訪れる人が増えたと、係の方が説明してくれた。確かに、結婚式を控えた新郎新婦の前撮りする姿が何組か見られ、若者に人気のスポットとなっている。

## ②名古屋城、金シャチ横丁（義直ゾーン・宗春ゾーン）

名古屋を代表する観光地。現在、天守閣は閉館中のため入れないが、2009年から復元工事が始まった本丸御殿が2018年に完成し、公開されている。戦前の貴重な資料を元に忠実に復元されていて、当時の英知を集結して作られた襖絵や天井板絵は息を飲む荘厳さがある。入場時に検温とマスクのチェックが有る。門の両側に手指用の消毒が有り係から消毒を促される。

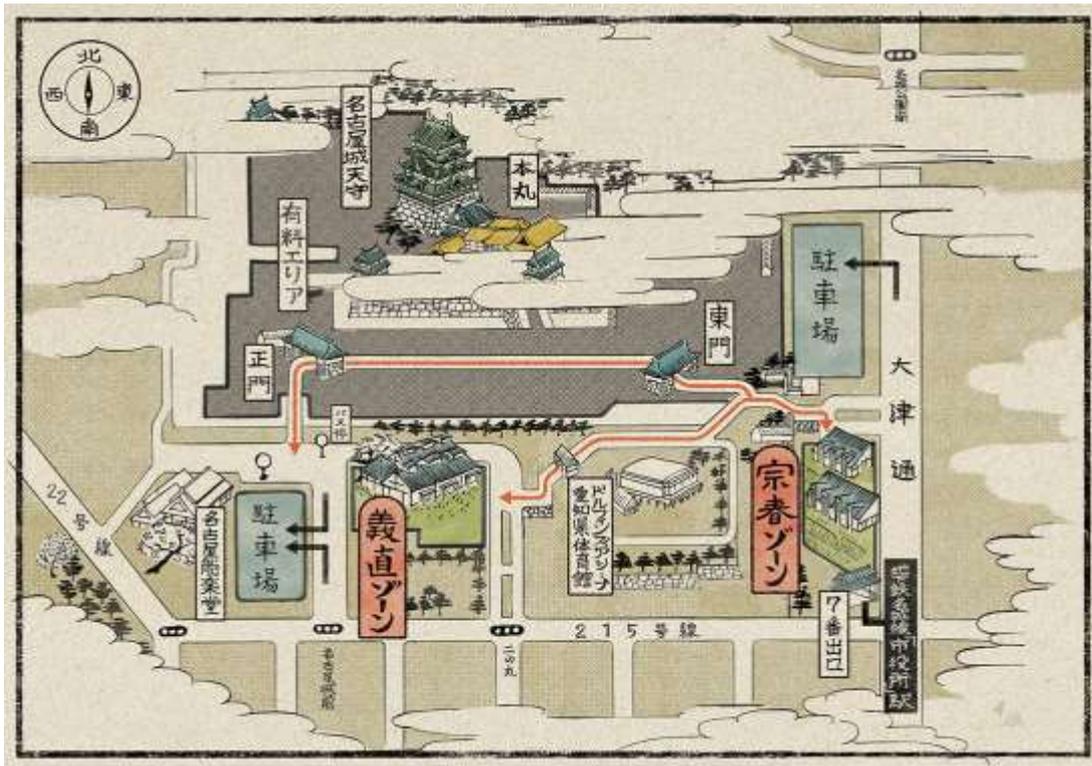
本丸御殿の入場は、マスク着用・手指消毒以外は特に制限もなく、人数をまとめて約10分間隔で入場させ人流を良くしている。

正門を入ると、甲冑姿の武将や忍者が迎えてくれ写真撮影に応じている。観光客の多くは軽装で訪れ、名古屋城を一周する散策に人気がある。広場には露店が並び子ども向けの猿回し・射的・輪投げなどの昔ながらの遊びと、屋台で若者や家族連れ向けの縁日のような雰囲気醸し出している。これは、旅行の満足度で50歳未満の層では「レジャー施設」が最も高いことや、訪れたい観光資源として「歴史的施設」が高いこと、20歳未満は多くの観光地への訪問意向を有しており、特に「名

古屋おもてなし武将隊」は、他の年齢層と比較して訪問意向が高かった事などを意識していると思われる。10年前にこのような仕掛けは無かったが、リピーターを増やす為の工夫が随所で見受けられる。名古屋城は正門と東門から出入りできるので、出入り口付近に、金シャチ横丁（名古屋城初代藩主・義直と7代藩主・宗春の名前を冠とした）という新たな飲食商店街を作った。建物は平屋の木造造りで瓦葺の純和風の佇まいが城と調和している。両方のゾーン共に城外なので営業時間も普通の飲食店と変わらないが、観光客を意識して雰囲気作りにもお金をかけている。

義直ゾーン、宗春ゾーンにパンフレットはないが記載しているQRコードでゾーンの店舗や料理、お土産などを見ることができる。下の地図もホームページから引用したものである。名古屋市では、「交流人口の核をなす観光入込客数の把握の精度を高め、観光施策の企画立案に必要な基礎データを整備するため実施した。」としている。

名古屋城の昔風地図



義直ゾーン



宗春ゾーン



## 2. 伊勢神宮とおはらい町・おかげ横丁の観光について

	平成 10 年	平成 15 年	平成 25 年	平成 30 年	令和元年	令和 3 年
伊勢神宮 内宮参拝	4,217,278	4,171,663	8,849,738	5,621,645	6,369,505	2,605,788
おかげ横 丁の観光	2,300,000	3,207,783	6,550,000	5,635,000	5,932,000	2,490,000

### (1) おはらい町の再建

伊勢神宮の鳥居前町として栄えたおはらい町は、江戸時代には参宮客が年間 200～400 万人も押し寄せた庶民の憧れの地であった。当時、日本全国から参宮客を集めた御師と呼ばれる人々がこの通りに館を連ね、客人をお祓いや神楽でもてなしたことから、いつしか「おはらい町」と呼ばれるようになったという。1970 年代後半には参拝を終えるとおはらい町へ立ち寄らずに次なる目的地の鳥羽・奥志摩方面へ行く観光客が増加し、伊勢神宮の参拝客が 500 万人であるのに対し、おはらい町を訪れた観光客は 20 万人にまで落ち込んでいた。近代化の波を受けて「伊勢らしい建物」をなくしたおはらい町は、観光の魅力を失っていた。この状況を憂慮し立ち上がった老舗和菓子店の赤福は有志を募り 1979 年（昭和 54 年）に「内宮門前町再開発委員会」を結成し、「洋風化したものが氾濫する時代だからこそ、日本的なこころのふるさとが求められている。」という考えに基づいて伊勢の伝統的な町並みの再生が始まった。こうした動きを受けて伊勢市は 1989 年（平成元年）に「伊勢市まちなみ保全条例」を制定し、「伊勢市まちなみ保全事業基金」が創設された。この基金は伝統様式を取り入れた修景の際に融資するというもので、補助金を拠出するものではなかったが、地域の人々の熱い思いからわずか 10 年で江戸時代の町並みがよみがえった。三重県や伊勢市当局もこの町並み再生に協力的で、電線地中化と路面の石畳化を実施した。そして町並みが整い始めた 1990 年代から「おはらい町」の名を前面に押し出すようになった。この保全事業は 2009 年（平成 21 年）10 月 1 日に「伊勢市景観計画」に引き継がれ廃止となった。

### (2) おかげ横丁

更に赤福は 1993 年（平成 5 年）の式年遷宮に合わせて「おかげ横丁」を開業させた。おかげ横丁と生まれ変わったおはらい町は、2002 年（平成 14 年）には入込客数が 300 万人を突破し、お蔭参りの頃の賑わいを回復した。大勢の観光客でおはらい町が賑わうようになった反面、2008 年（平成 20 年）には 9 件の事故が発生したほか、「車にひかれそうになった」などという苦情が寄せられ、2009 年（平成 21 年）7 月 25 日から土・日・祝日の伊勢おはらい町通りは歩行者天国になった。現在では、営業時間内は歩行者天国となっている。平成 6 年のおはらい町・おかげ横丁は 200 万人の観光客であったが、令和元年には約 593 万人まで増加し、コロナ禍の令和 3 年度は約 249 万人の観光客が訪れている。

### （３）伊勢市観光統計

#### ①内宮参拝客

平成元年で約 396 万人、平成 21 年約 601 万人、平成 25 年約 885 万人（遷宮による参拝）。令和元年には 637 万人となっていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止により令和 2 年 362 万人、令和 3 年度は 260 万人にまで落ち込んでいる。

#### ②宿泊者数

令和元年約 59 万人であったが、令和 3 年には約 37 万人未満まで落ち込んでいる。

#### ③観光消費額

平成 30 年度で約 583 億であったが、令和 2 年度は約 300 億円で 51.4%まで減少している。消費額で日帰り客は 1 人当たり 5,448 円、年間 201 億円、宿泊客 1 人当たり 22,954 円、年間 99 億円である。「日帰り」が 48.8%、「市内宿泊」が 19.0%、「市外宿泊」が 32.2%となっている。

#### ④令和 2 年度の参拝客内訳

男性が 56.4%であり年齢別では 50 代 25.4%、40 代 21.1%、30 代 20 代 16.5%であり、50 代から 20 代が 8 割を占めており、コロナ禍にあり違う結果が出ている。同行者の種類について、「夫婦」が最も多く 28.6%、次いで「家族（子ども）」が 23.9%、「一人旅」が 14.1%と続いている。利用した交通機関について、「自家用車・バイク」が最も多く 68.9%、「電車」が 34.8%、と続いた。訪問回数は 10 回以上 41.3%、4~9 回 22.1%で 63.4%がリピーターとなっており、伊勢市を選んだ理由で以前に来てよかったから 65.2%となっている。

#### ⑤観光の目的

「参拝」83.4%、「おいしいものを食べる」61.8%、「街並みや賑わいを楽しむ」18.1%と、なっている。立ち寄った観光地について、「おかげ横丁・おはらい町」が最も多く 85.2%、次いで「内宮(伊勢神宮)」が 71.8%、「外宮(伊勢神宮)」が 52.1%と続いており、おはらい町・おかげ横丁は伊勢神宮内宮への参拝客の殆どを集客しており、更に参拝以外の観光客の誘致に成功している。

#### ⑥満足度

景観 93%、観光施設 91.4%、おもてなし 90.3%、飲食 89.3%、物産 87.9%の順になっている。



### 3. 観光について

(1) 京都大学経営管理大学院 湯山茂徳 工学博士の提言

～エンタテインメントビジネスとしての観光～

観光は、旅行・料理・好奇心・別世界・夢の国への誘い・おもてなしなどに関連付けられ、エンタテインメントビジネスにおいて、主要分野の一角を形成している。観光の持つ移ろいやすさ、観光対象への「飽き」などを考えると、長期にわたって恒常的に観光客を惹きつけることは容易でない。観光価値の持続性の必要条件として以下の4点がある。

#### ①差異化

ファッションの流行現象と同じように常に他との差異を創り出し優位に立つこと。ライバル関係に立つ観光地との差異、同じ観光地であれば、以前と比べての差異などである。観光客自身も、他人がまだ行ったことのない場所にいち早く行くことで他人との差異を作りだし、優越的な地位を誇ることが出来る。

#### ②身体的認識による価値創造

視覚に限らず様々な感覚に訴える方法である。観光とは、第一義的に「観る」ことであるが、観光体験には、それ以外の身体的体験、美味しいものを食べること・避暑・避寒など、気候的な快適さを感じることなど身体そのものに刻み込まれる感動がある。そうした体験は、快感として記憶されエンタテインメントの特徴として1回限りの消費に終わらず、やがては繰返しを求めるようになる。

#### ③古典化による価値の維持

観光対象として忘れ去られることなく、むしろ広く社会に浸透し、その価値が高い評価を安定的・長期的に維持することである。芸術作品が時代の変化にもかかわらず、流行に影響されずに人々に感動を与え続け、フロー（流れ）ではなくストック（在庫・溜めておく）としての価値を有することに類似している。

#### ④人との交流

言うまでもなく誰もが常に求め続け、人間が人間であるための本質的な行為である。見知らぬ土地で出会った人々との交流、そこで味わった親切さ、優しさは大きな感動として心に刻み込まれ、記憶の深層にいつまでも生き続ける。

ネットエンタテインメント（コミュニケーション）は、サイバー空間が持つ特徴、すなわち同じ高さの目線でものを見る、平等性・双方向性・同時性・関与の自由と任意性にその基盤を置き、日々発展を続けている。世界中がネットで容易に繋がるグローバル市場で観光産業を振興するには、SNS・観光アプリ等から得られるビッグデータを活用し、旅行者の地域に関するニーズ・満足度や国内における行動・動態を分析し、誘客のための取組みに反映する手法を構築することが有効である。そのために、地域分析に有用な経済センサス活動調査の結果や、モバイルデータなどを活用し、地域ごとに統計分析の整備を進めるべきと考えられる。

## （２）視察を終えて

名古屋市、伊勢市ともに、まん延防止が解除になってもタクシー不足が起きている。まん延防止により夜の飲食店が閉鎖されたため、タクシー業界は乗客を失い若い運転手が辞めてしまい、タクシーの運転手は年金者が殆どという状態である。飲食店でも同じような事が起きている。長期に渡る自粛で、パートの雇止めが続き、自粛解除となってもすぐに店員が居ない現状がある。この度の視察は、自粛直後ということもあり、24日の飛行機や列車はガラガラであったが、帰りの26日は自粛解除後初の週末となり、名古屋駅では朝10時開店と共に土産1個買うのに2~30分かかるのは良い方で、行列はとどまる所を知らず大混乱である。自粛生活に嫌気がさした人たちが、それぞれの目的地に向かうために名古屋駅は人の波で大混雑しており、帰りの飛行機も家族連れなどで満席であった。人は居住地外の移動制限を窮屈に感じ、観光は見知らぬ人々との交流を楽しめるツールなのだ。

今回は観光地視察であったが、人の心に触れ・心に残るような様々な工夫を見ることが出来た。

名古屋城内の名古屋おもてなし武将隊、露店や屋台、金シャチ横丁などに若者が携わっており、このような施設の雰囲気楽しく何度でも来たくなるような仕掛けがある。20歳未満と80歳以上の層では、「ショッピングや街歩き」の満足度が最も高く、訪れたい名古屋観光資源では「街歩き」6.7%となっている。調査結果を基に、このような施設建設に繋がっていると思われる。おはらい町は、まん延防止終了直後で飲食店は何処も満席であり、春休み期間だったこともあり学生が多く出店に行列ができています。名古屋城・おはらい町共に観光地として有名な土地柄であるが、観光客のリピーター化に力を注いでいる。おかげ横丁には観光客が一休みできる東屋を中心に赤い毛氈の縁台をあちらこちらに並べている。これは、雰囲気をゆっくり楽しんでもらうための最高のおもてなしでもある。白老町には、基礎データを基に観光入込数増加に繋がる提案を望むものである。

徳川美術館



名古屋城



おほらい町・おかげ横丁



名古屋城



名古屋駅・高島屋

